

2022年3月期 第2四半期決算発表 補足資料

2021年10月29日  
日本ガイシ株式会社

[セグメント間売上消去後]

□ は'21/7公表値

□ は'21/7公表値

	2021年3月期 第2四半期累計		2022年3月期 第2四半期累計		前年 同期比	2021年3月期 通期		2022年3月期 通期		前期比
	実績	構成比	実績	構成比		実績	構成比	見通し	構成比	
売上高合計	1,949	100%	2,502	100%	+28%	4,520	100%	5,150	100%	+14%
<海外売上高合計>	<1,362>	70%	<1,904>	76%	+40%	<3,245>	72%	<3,850>	75%	+19%
営業利益 (率)	116 (6%)		459 (18%)		+297%	508 (11%)		830 (16%)		+63%
エネルギーインフラ事業	191	10%	199	8%	+4%	420	9%	410	8%	△2%
営業利益 (率)	△23 (-)		△9 (-)		-	△40 (-)		△30 (-)		-
セラミックス事業	983	50%	1,476	59%	+50%	2,489	55%	3,000	58%	+21%
営業利益 (率)	66 (7%)		368 (25%)		+454%	412 (17%)		680 (23%)		+65%
エレクトロニクス事業	268	14%	257	10%	△4%	541	12%	520	10%	△4%
営業利益 (率)	6 (2%)		30 (12%)		+365%	28 (5%)		50 (10%)		+81%
プロセステクノロジー事業	507	26%	570	23%	+12%	1,070	24%	1,220	24%	+14%
営業利益 (率)	66 (13%)		71 (12%)		+8%	109 (10%)		130 (11%)		+20%

第2四半期累計期間の要点・・・売上・利益共に上半期過去最高を更新

① 事業別業績概況(売上高、営業利益)  
 【エネルギーインフラ】・・・増収・赤字は縮小  
 ・がいし 国内需要は低調も、価格改定効果や費用削減等により増収・黒字化。  
 ・エナジーストレージ 国内外共に出荷は低調。  
 【セラミックス】・・・増収・増益  
 ・自動車関連 コロナウイルスの影響で低調だった前年同期に比べ、当上期は乗用車・トラック販売が回復し、大幅な増収・増益。  
 【エレクトロニクス】・・・減収も利益は増益  
 ・金属 車載向け需要の増加等により、増収・増益。  
 ・電子部品 中国携帯基地局投資の増加を背景に、セラミックパッケージの需要が増加し、増収・増益。  
 (双信電機の連結除外影響:売上高△44億円、営業利益+2億円)  
 【プロセステクノロジー】・・・増収・増益  
 ・HPC ※ 好調なファウンドリ投資等を背景に需要が増加し、増収・増益。  
 ② 為替影響: 売上高+49億円、営業利益+14億円  
 前年同期 107円→当期 110円/USD、121円→131円/EUR  
 ※HPC・・・半導体製造装置用製品

\* 売上高 2,282億円(2019年3月期)  
営業利益 413億円(2016年3月期)

通期 見通しの要点・・・売上・利益共に過去最高の更新を見込む

① 事業別業績概況(売上高、営業利益)  
 【エネルギーインフラ】・・・減収も赤字は縮小  
 ・がいし 海外プロジェクトが延期となったものの、価格改定効果等により黒字化の見通し。  
 ・エナジーストレージ 国内外で出荷が減少し、赤字が継続する見通し。  
 【セラミックス】・・・増収・増益  
 ・自動車関連 世界的な乗用車・トラック販売台数の回復を受けて大幅な増収・増益の見通し。  
 【エレクトロニクス】・・・減収も利益は増益  
 ・電子部品 好調なデータセンター投資を背景としたHDD用圧電素子の需要増に加え、水晶デバイス向けセラミックパッケージ等の需要が増加し増収の見通し。  
 (双信電機の連結除外影響:売上高△69億円、営業利益+1億円)  
 【プロセステクノロジー】・・・増収・増益  
 ・HPC 好調なファウンドリ投資の継続等を背景に需要が増加し、増収・増益の見通し。  
 ・産業プロセス リチウムイオン電池正極材用加熱装置は中国で需要が増加し増収を見込む。  
 ② 為替影響: 売上高+99億円、営業利益+42億円  
 ・前期 106円→当期 110円/USD、124円→131円/EUR  
 (下期為替前提:110円/USD、130円/EUR)  
 ・下期1円当たりの影響:USD(売上高6億円、営業利益2.7億円)  
 EUR(売上高3億円、営業利益0.2億円)  
 ③ 特別利益 過年度に実施した増産設備投資等に係る補助金45億円を計上予定。  
 ④ 配当予想 中間30円を決議、期末30円の過去最高の年間60円を予定。

\* 売上高 4,635億円(2019年3月期)  
営業利益 809億円(2016年3月期)

	2021年3月期		2022年3月期		前年 同期比	2021年3月期		2022年3月期		前期比
	売上高比	構成比	売上高比	構成比		売上高比	構成比	売上高比	構成比	
経常利益	122	(6%)	439	(18%)	+259%	530	(12%)	820	(16%)	+55%
親会社株主に帰属する 当期純利益	73	(4%)	320	(13%)	+340%	385	(9%)	600	(12%)	+56%
ROE	-		-			7.9%		11.4%		
1株当たり純利益	22.96円		101.86円			121.61円		191.86円		
配当金(配当性向)	10円		30円			30円(24.7%)		60円(31.3%)		
為替レート(円/USD)	107		110			106		110		
為替レート(円/EUR)	121		131			124		131		
設備投資	290	15%	164	7%	△43%	508	11%	490	10%	△4%
減価償却費	217	11%	241	10%	+11%	449	10%	500	10%	+11%
研究開発費	107	5%	108	4%	+1%	224	5%	240	5%	+7%